



凝縮された2年間の経験 グローバルな看護を次世代に伝え続けていく

山崎 智恵さん 富山福祉短期大学看護学科助教
Chie Yamazaki

最初の任地は、戦火に包まれる直前のシリアだった。

情勢悪化により一時帰国、東日本大震災の避難所で働き、そして新たな任地モロッコへ。

戦争、自然災害、貧困……世界の課題を目の当たりにしてきたからこそ、伝えられるものがある。

マタニティマークの シリア版を作成

日本で使われているものと同じデザイン。でもお母さんは、イスラム女性が髪を隠すため身につけるヒジャーブ姿。山崎さんが青年海外協力隊時代に作成したマタニティマークだ。

「母子保健を広め、妊婦さんにもっと



健診を受けてもらおう—そんな思いで同僚と一緒に作り、保健センターをはじめ女性がよく通う薬局や美容院などにも貼ってもらいました。マタニティマークの普及は、シリアはもちろんのことアラブ諸国では初めての試みでしたが、今では他の国にも広まっています」

シリアからモロッコへ 派遣国変更を乗り越えて

高校生の頃から看護師として海外で働きたいと思っていた山崎さん。大学では国際看護学を学び、ミャンマーでの研修を通じて協力隊への参加を考えるようになった。卒業後、東京都の文京区役所で保健師として働いたが思いが

募り、休職して協力隊に参加することを決意した。

2010年6月にシリアへ派遣。任地のマンベジ郡はイスラム色の濃い保守的な地域で、女性の識字率は5割以下、家からあまり出ずに生活する女性も多い。保健センターに配属された山崎さんは、妊産婦や乳児にもっと地域医療を利用するよう呼びかける活動に取り組んだ。

出産回数の多さや間隔の短さ、若年や高齢での出産……課題は山積だが、まずは保健センターで妊産婦健診を受けてもらうこと。そこからお産や産後の経過まで、継続的なケアに繋げるシステムを作る。そんな中から出てきたのがマタニティマークを作るアイデアだった。

「残念なことに、シリアでは10ヵ月し



今や学生はアジア各国から集まってくる。日本、そして世界に羽ばたく看護師の卵とともに。

か活動できませんでした。国内情勢が悪化し、やむなく一時帰国。その後も情勢は変わらず、シリアに戻ることができなくなってしまったのです」

2011年4月に一時帰国し、再赴任か振替派遣となるか調整がなされている間、東日本大震災の避難所となっていた福島県二本松市にあるJICA青年海外協力隊訓練所にて、ボランティアとして活動した。

「2ヵ月間、避難者の健康管理を担当しました。避難所生活が長期化し、不眠やうつ、アルコール依存などの問題も発生し、メンタル面のケアにも力を尽くしました」

4ヵ月後、派遣先がモロッコに変更され、2011年8月にケニトラ市の保健センターに赴任した。モロッコは、近隣諸国に比べて妊産婦や乳幼児の死亡率が高く、母親学級の普及に力を入れ始めた矢先だった。山崎さんも、母親学級の定着と内容の改善に取り組んだ。

「テレビやDVDなど、視聴覚機器の導入や教材作成を行い、正しい情報を分かり易く伝えようと思いました。モロッコの伝統服ジュラバを授乳用にリメイク



日本では一般的となったマタニティマーク、山崎さんら協力隊員の尽力により、今ではアラブ諸国にも広がっている。

したものや授乳用クッションを考案して、助産師学会でも発表。実際に使ってくれた人がいて嬉しかったですね」

シリアもモロッコもアラビア語圏だが、現地で話している言葉はかなり違う。同じイスラム圏とはいえ文化も異なっている。2カ国で活動した山崎さんは「世界にはさまざまな文化があり、共存して生きることが大切」と実感した。

母性看護を勉強し 学生を導く立場に

山崎さんは、帰国後も協力隊で出会った母親や子どもたちのことが忘れられず、母性看護学を学ぶため大学院へ進学。助産師の資格を取得し、2018年6月からは富山福祉短期大学で、母性看護学と国際災害医療活動を教えている。「モンゴル人や中国人の学生に加え、今度はミャンマー人も入学しますから、授業では協力隊で体験した話を交え、外国人も楽しく学べるよう心がけています」

教鞭以外の活動も活発だ。高岡市在住のシリア人が祖国の難民キャンプに小学校を建設しており、山崎さんは運営面



授業では、本物の赤ちゃんと同じ重さの人形を使い、抱っこや沐浴の仕方、オムツ交換といった体験学習を通じて、実践力を身につけさせていく。

山崎 智恵さん プロフィール

富山県出身。看護大学で国際看護学を学ぶ。卒業後、東京都文京区役所での勤務を経て青年海外協力隊に参加。2010年6月よりシリア派遣、情勢悪化により2011年4月に一時帰国。待機中に東日本大震災の避難所でボランティア活動に従事。2011年8月よりモロッコ派遣。2012年6月に帰国した後、大学院へ進学して保健学修士と助産師の資格取得。2018年6月より富山福祉短期大学の教員。

のサポートを行っている。また、中東地域の母乳育児推進を図るため、伝統的な民族衣装の授乳服を制作するプロジェクトも立ち上げた。

「長引く内戦でシリア人の知り合いが悲惨な目に遭いました。そんな中、8年ぶりに当時の同僚が戦火を逃れながら保健センターで頑張っていることが分かり、希望も出てきました。シリア人はとても優しくして素朴。そんないい面をいろいろな場で伝えていきたい」

後ろ髪を引かれる思いで離れたシリアは、国や文化を超えて学び、助け合うことの大切さを教えてくれた。山崎さんはその経験を、グローバルな看護を志す次世代に伝え続けていきたいと思っている。

山崎さんへの エール!

富山福祉短期大学
看護学科
学科長、教授
北濱 まさみさん



グローバル看護を目指す学生のよき先輩

常に穏やかに学生に接している山崎さん。学生たちはその姿を通じて、妊婦さんに対する接し方を学んでいると思います。国際看護学の授業では、協力隊で活動した時の実体験を聞くことができますし、その影響で協力隊に参加したいという学生も、毎年数名出てきています。そうした学生の相談相手にもなってくれて、大変助かっています。